

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」(東ユニット)		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.1.2017.022.kani=true&J_gyosyoCd=2192200034-00&Pr_ofCd=21&Ver_si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がその人らしく暮らし続ける支援に向けて一人一人の思いや要望は何かと職員が関心を払い把握することに努めています。また個々の利用者様のできる力を維持できるようご家族にもご協力いただきながら、日々の生活の中で楽しみや、やる気を見出してもらえよう支援をしています。ご家族様にも気軽に来苑していただけるよう、ご意見ご要望なども話しやすい雰囲気作りにも努め、ご意見等には真摯に受け止め次に繋げるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者を人生の先輩として敬いの心で接し、一人ひとりの思いを大切に、住み慣れた所で安心して過ごせるよう取り組んでいる。事業所は地域と交流をし地域の一員として受け入れられている。終末期ケアや看取りを本人・家族と意思を確認し契約書を交わして、状態に応じて早い段階から話し合い、医師と連携しながら方針を共有している。職員にはケアや連絡の方法・家族とのかかわり方を指導し、全員で話し合いながらを行っている。機械浴があり、重度化、終末期になっても入浴できるように支援している。職員は、利用者のペースを大切に、利用者同士が家族のように和やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で施設理念の唱和を必ず行い、その理念を共有して、日々のケアの中で活かせるよう努めている	理念を目にするところに掲示し、話し合い、共有している。利用者の思いを大切に、住み慣れた所で地域とふれあいながら、安心してその人らしい生活が継続できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の行事や保育園児の来苑、地域住民の方から野菜を頂いたり、外出や散歩等、地域と関わりながら暮らせるよう努めている	いろいろなボランティアを受け入れ、地域の人に参加してもらえる行事を計画して交流をしている。資源回収の協力、中学生の体験学習を受け入れ地域の一員としての役割を担っている。散歩時に地域の人と挨拶を交わし日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動として、認知症サポーター養成講座に出向き、地域の団体や小学校で認知症の啓発活動を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に近隣事業所合同で会議を開催している 会議でいただいた意見を職員会議でも報告し、サービス向上に活かすよう努めている	法人の3事業所合同の会議であるが、消防署や駐在所の方も出席し、それぞれの立場から意見が出ている。会議後半は各事業所毎の話し合いをしている。消火栓を設置したので訓練をしたらとの提案があり実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が中心となって取り組んでいる認知症対策検討会への参加や在宅ケア困難な方の相談を受ける等、日頃からの連携が取り合える関係作りができています	市の認知症対策委員会に相談役として参加している。認知症カフェでグループホームの説明や相談を受けたり、市からの依頼で小学校のキャラバンメイトの講義に寸劇を披露し、ピラ配りをするなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは、施設内外の研修を受講している 安全面への配慮と身体拘束をしないケアについて、常日頃より意識しながら取り組んでいる	職員は研修を受け対象となる具体的な行為を理解している。センサーマットの使用も拘束ととらえ「身体拘束に関する報告書」「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」に家族の同意を得ている。経過観察し、職員会議など定期的に話し合い、センサーマットが取れないか検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を実施したり、職員には自己ケアチェックを行い面接するなど、虐待のない環境づくりに努めている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、利用者・ご家族様の背景を踏まえた上で、十分な説明を行うように心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には相談窓口についての説明とポスターの掲示 日頃より意見の言いやすい関係づくり心がけている	家族の訪問時に必ず声かけをして要望を聞いている。訪問の少ない家族には手紙や電話で意見や要望を聞いている。食事内容や味付けの意見や、支払いをクレジットカードでしたいとの要望があり、すぐに導入し対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場の雰囲気として意見の言いやすい環境づくり心がけ、職員とのコミュニケーションを図るようにしている	代表者や管理者は、普段から意見の言いやすい環境を作っている。年2回個人面談を行い、目標やケアの振り返り、また意見や提案を聞いている。書式の変更やプリンターの追加購入の要望があり、改善・購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与のアップや労働条件に応じた諸手当の制度等、意欲的に働ける職場づくりを目指している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修は年間予定を立て実施し、ケアチェックや個人面談等でケアの実際、力量の確認を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設が開催する勉強会に招いていたり、ケアサービス向上連絡会に参加し、交流や学ぶ機会を作っている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談の際は、これまでの生活歴や家族関係、ライフスタイルのこだわり等を把握しつつ、ご本人の想いをしっかり受け止めながら関わるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階から、利用者、ご家族の状況に応じた面談日数、電話でのお話等、少しでも安心してご利用できるよう信頼関係づくりに心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用されたい方が、今、その状況の中で入所された場合、どうなるかを必ずイメージしながら、施設として出来るサービスは何かを伝え、ご家族と共に相談させてもらっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることに目を向けて、いつも”ありがとう”の感謝を伝えることを習慣づけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入所されてもご家族の存在は大きく大切であることを説明し、共に支えてくださる役割をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご理解ご協力のもと、馴染の理容院の定期的な来訪、ご友人の訪問等、環境作りや支援に努めている。	普段の会話や家族の情報から馴染みの人や場所を把握をしている。以前利用していた事業所から情報を得た事もある。家の前をドライブしたり、兄弟会に出席した人もいるなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や認知度を把握した上で、席の配置を検討し、時には仲を取り持つよう会話をしたりして、利用者同士の距離感にも配慮している		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が一旦終了しても、再入所の申込みをしていただいたり、何かあった時にはいつでも相談していただくようにお話している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人らしく暮らしていただくための情報シートを活用しながら、希望や意向の把握に努めている	入所前の生活などを知り、会話の中から思いや意向を把握している。困難な人も表情やしぐさで把握するよう努めている。得た情報はミーティングなどで共有している。編み物の好きな人に毛糸を提供し、帽子、マフラーなどを編み喜ばれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでに利用されていたサービス事業所や担当のケアマネの方と連携を図り、状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行ったり、その日にかかわる職員が記録を残し、申し送ることで状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施したり、日々のケアの中でもアイデアを出し合って取り組み、状況に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングをし、会議で意見を出しあっている。往診時に医師の意見を聞き、家族の要望を取り入れ作成している。状態の変化に伴い食事形態や排泄介助の変更など検討し現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を記録に残し、職員間で情報共有しながらケアを行い、介護計画も見直されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた突然のニーズに対しても可能な限り柔軟に対応させていただいている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や保育園等と関わり合いの中で、ご本人の力を発揮したりして、出合いや楽しみのある生活を支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前には必ずかかりつけ医の確認をし、ご納得された上で安心して医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望で決めている。受診は家族との関わり合いの機会としてなるべく家族に同行を依頼するが、職員が同行することもある。家族同行の時は受診前に情報を提供し、受診後の結果を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者に関わる中で気づきや変化を伝え、相談し、介護と看護の連携をとって、適切な受診につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関は入院中の契約期間や身体的状況の受け入れ体制についてお伝えし、早期退院に向けて、病院側との関係作りも行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や身体機能の低下時等、早い段階から何度もご家族の意向を確認したり、かかりつけ医と連携し方針を共有しながら支援している	入居時に事業所の方針を説明し、本人・家族の意思を確認し契約書を交わしている。状態に応じ医師と連携しながら方針を共有している。職員にはケアや連絡の方法・家族との関わり方を指導している。亡くなる前に一度家に帰りたい希望の方を自宅に送迎し家族に感謝された事もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受ける機会を作り、定期的に対応法を学び実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実施し、運営推進会議の後に行うことで、地域の方々にも見学していただき、協力体制を得られるよう努めている	隣接する事業所と合同で、火災・水害・夜間を想定し、利用者や運営推進会議出席者も参加し訓練を行っている。自治会からは出来る限りの協力をすると約束を得ている。	

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬いの心を持って接するよう心掛けている。居室対応の方の居室出入口には暖簾をつけプライバシー保護をしている。	利用者を「さん」付けで呼び、排泄誘導の時は、耳元で声掛けしている。入浴は一人ひとり、入浴後更衣を終えてから次の人を呼びに行くなど個々の人格やプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見が聞けるよう、日頃の信頼関係作りに注意している。日常会話を大切にし、出来るだけ希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調や気分注意到、行事などへは参加して頂いてる。環境の変化で不安になられる方もいるので、個々のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出等おしゃれをしたい時には、ご本人の想いに添って一緒に服を選ぶようにしている。また、意思表示の少ない方はご家族が用意された服を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで、会話をしながらゆったりとした食事時間を持ち、食材の下準備やおしぼりたたみ等、利用者様の力量に応じてお手伝いをお願いしている。	職員が利用者の好みや状態を考慮し、食材を見ながら献立を立てている。利用者は豆のすじやつくしの袴取りなどできることを手伝っている。おやつ作りや外食、誕生会など楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食器を使用し、ご本人の食べたい順番や食べたい場所で食事をして頂いている。色やバランス、その方に合わせた量など、盛り付けにも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行い、お一人ずつ職員がつき見守り、支援をさせていただいている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録により排泄パターンを把握し、その方に合わせた介助、誘導を行っている。失敗の際には尊厳に充分配慮をし、傷つけないような声掛けに努めている。	排泄パターンを把握し、夜間もトイレに誘導するなど自立に向けた支援をしている。退院後オムツ使用の人は徐々に外すように取り組んでいる。リハビリパンツやパッドを工夫するなど一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の援助や腹部マッサージの実施。食物繊維の多い食材、ヨーグルト、牛乳などを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声のかけ方、タイミングに注意し、その方のペースに合わせた介助方法で行っている。また、安心安全に努め、ゆったりとした時間を提供できるよう支援している。	入浴の一番の楽しみはゆったり・のんびり入ることと考え、脱衣や入浴は次の人を気にしないよう配慮している。こだわりのある人には、個々のシャンプーや入浴剤を使用している。機械浴があり、重度化しても週2日以上入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のリズム、習慣に合わせて日々過ごして頂いている。就寝時は照明や室温等、環境整備にも心掛け、気持ちよく就寝できるよう支援させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更があった時には申し送り漏れがないよう特に注意している。申し送り簿に必要事項が記入されており、職員に周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗絵や計算など楽しみにしている方もみえるので、時間・枚数など注意しながら提供している。提示することで日々の生活に張りを感じて頂けるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に1度、外出支援を行い、ドライブや食事会などで気分転換をして頂き、ご家族様にも面会時、気分転換を兼ねた外出を依頼している。	季節ごとに花見、ドライブや食事会などに出かけている。天気の良い日は10時のお茶を外でしたり、洗濯物の取り込み、草取りなどをすることもある。家族の訪問時に外出する事もあるが、利用者に偏りが見られ、日常的に屋外に出かける事が少ない。	寒くなり、外出しにくい季節であるが、畑の野菜や花を見に行ったり散歩するなど、日常的に外出する機会を作るよう期待したい。

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いの中、ご本人の想いを尊重しでき得る限りの支援をしている。また他利用者様とのトラブルが生じないよう配慮に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により電話を取り次いだり、代弁してご家族に用件をお伝えするなど、状況に応じた支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品作りをしリビングに展示したり、外出の時の写真を飾って、他者との思い出を共有する場としてなど、ゆったりと過ごして頂けるよう、室温調整等にも配慮している。	換気・室温・採光・遮光に気を付けている。廊下にもソファがあり一人でゆっくり過ごせるようになっている。玄関や居間には季節ごとの手作り作品や写真が飾ってあり季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや和室コーナーなど気の合う利用者様同士で談笑されたり、また一人の時間をゆっくりと過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がご自宅で使用されていた家具などを持って来て頂き馴染みの物がある中で居心地の良さと安心感のある居室作りを心掛けている。ご家族の写真などを飾って癒しを感じていただけるような配慮をしている。	テレビや遺影を置き、壁には家族の写真、誕生日の色紙を飾っている。職員は利用者の自宅と同じように家具の配置や、飾りつけをして居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADL評価票を活用してできることなど、残存機能を把握した上で、利用者様が安心・安全に自立した生活が送れるよう支援させていただいている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」(西ユニット)		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200034-00&PrEfCd=21&Ver:si onOd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で施設理念の唱和を必ず行いその理念を共有して日々のケアの中で活かせるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の行事や保育園児の来苑、地域住民の方から野菜を頂いたり、外出や散歩等、地域と関わりながら暮らせるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動として、認知症サポーター養成講座に出向き、地域の団体や小学校で認知症の啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に近隣事業所合同で会議を開催している。会議でいただいた意見を職員会議でも報告しサービス向上に活かすように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が中心となって取り組んでいる認知症対策検討会への参加や在宅ケア困難な方の相談を受ける等、日頃からの連携が取り合える関係づくりができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは外部・内部の研修を受講している。安全面の配慮と身体拘束をしないケアについて常日頃より意識しながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を実施したり、職員には自己チェックを行い面接する等、虐待のない環境作りに努めている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は利用者・ご家族様の背景を踏まえた上で十分な説明を行うよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には相談窓口についての説明と、ポスターの掲示。日頃より意見の言いやすい関係づくりに心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場の雰囲気として、意見の言いやすい環境作り心がけ、職員とのコミュニケーションを図るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与のアップや労働条件に応じた諸手当の制度等、意欲的に働ける職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修は年間予定を立て実施し、ケアチェックや個人面談等でケアの実際・力量の確認を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設が開催する勉強会に招いて頂いたり、ケアサービス向上連絡会に参加し、交流や学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談の際はこれまでの生活歴や家族関係、ライフスタイルのこだわり等を把握しつつ、ご本人の想いをしっかり受け止めながら関わるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階から、利用者・ご家族の状況に応じた面談日数、電話でのお話等、少しでも安心してご利用できるよう信頼関係づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用されたい方が今その状況の中で入所された場合、どうなるかを必ずイメージしながら、施設として出来るサービスは何かを伝え、ご家族と共に相談させてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることに目を向けて、いつも「ありがとう」の感謝を伝えることを習慣づけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入所されてもご家族の存在は大きく大切であることを説明し、共に支えてくださる役割をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご理解ご協力のもと馴染の理容院の定期的な来訪、ご友人の訪問等への環境づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や認知度を把握した上で席の配置を検討し、時には仲を取り持つよう会話をしたりして利用者同士の距離感にも配慮している。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が一旦終了しても再入所の申込みをしていただいたり、何かあった時にはいつでも相談していただくようお話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の言動や表情、会話などで想いを汲むなどして把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に関わりの合った関係機関やケアマネの方と連携を図り、また家族からの情報等、状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや心身の様子などを記録し申し送りをする事で職員全員が現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行うモニタリング、ケース会議や日々のケアの中など意見やアイデアを出し合い、またご家族の想いも反映しながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化やケアについての記録を残す、職員間で情報共有することでケアの見直し、やプランの見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた突然のニーズに対しても可能な限り柔軟に対応させていただいている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児やボランティアの方の来訪により、出会いや楽しみをもって頂く中でご本人の力が発揮できるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前には必ずかかりつけ医の確認をし、ご納得された上安心して医療を受けられるよう支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者に関わる中で気づきや変化を伝え、相談し介護と看護の連携をとって、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関には入院中の契約期間や身体的状況の受け入れ体制についてお伝えし、早期退院に向けて病院側との関係作りも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や身体機能の低下時等、早い段階から何度もご家族の意向を確認したり、かかりつけ医と連携し方針を共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受ける機会を作り定期的に対応法を学び実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災・避難訓練を実施し運営推進会議の後に行うことで、地域の方々にも見学していただき、協力体制を得られるよう努めている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症という症状に隠れた本来のその方らしさや人となりを理解し、施設のご利用者様として、また人生の先輩として失礼に当たらないよう、言葉遣いに配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が素直に思いを伝えることのできる信頼関係作りに努めている。自己選択や自己決定の支援に関しては判断に時間を要する場合は選択肢を2～3に絞り職員からのアドバイスを添える事で意見を引き出し易くなるよう工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベントへの参加や入浴は、心身状況も含めて無理のない範囲でお誘いしている。余暇活動は、利用者様の身体に負担がないか見極めつつ、意思を尊重した自由な時間を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は利用者様の髪の伸び具合を見て随時行い施設近隣の美容院や馴染みの理容院に依頼をしている。衣替えは季節に応じて行い、利用者様の好みを汲み取りながら一緒に選択している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日食べたいものをお聞きして作るリクエスト献立や、行事食を取り入れている。昼食は職員と利用者様が同じ食卓を囲み、より家庭の雰囲気に近い環境で楽しく会話をしている。料理は彩りや盛り付けにも配慮し提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録や月一度の体重測定で、栄養状態の把握に努めている。食べやすい食器の選択、自助具の使用にて自己摂取を促し、トロミ剤・ミキサー食にて誤嚥リスクを軽減し水分もお茶以外の物で飽きない工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・臥床時や毎食後に必ず実施し、清潔保持に努めている。個々に合わせた口腔ケア用品を使用し、残渣物が無いか職員が最終確認をしている。歯や義歯に不具合がある場合、歯科医の往診を依頼している。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の介護記録から個々の排泄リズムを把握し先を見越した早めの声かけやトイレ誘導行い、失敗時は傷つけないような配慮のある声掛けに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の援助とリハビリ体操参加への声かけや腹部マッサージ等を行っている。消化の良いもの、牛乳、食物繊維を多く含んだ食材などを提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のペースや気分に合わせて声掛けや、ゆったりとした入浴時間を提供できるよう支援をしている。また、その方に合った入浴方法を検討し安心・安全な入浴となるよう努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は可能な範囲で活動的に過ごして頂けるよう、また小休憩や午睡を挟むなど個々に合わせた支援をしている。静かで落ち着いた環境作りや丁寧な声かけにより安心して就寝できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更時は申し送り等で職員に周知徹底し、処方箋は所定場所に保管し、随時確認できるようにしている。また服薬時は職員二人とご本人に確認していただき必要に応じた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の作品作りや折り紙・編み物・塗絵などの個々の趣味は体調に配慮しながら見守っている。作業レクでは新聞・洗濯物たたみなど持てる力を活かせるような環境づくりにも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の面会時に気分転換を兼ねた外出を依頼し、散歩や外食等をしていただいている。施設では、ドライブ、食事会、近隣の公園の散策等ほぼ月に1度外出支援を行い、気分転換を図っている。		

グループホーム 木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安・不満が生じないようにご家族と話し合い個々に支援させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時に電話の取次ぎや、代わりに家族に用件をお伝えるなどの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて、採光・明るさ・温度調節を行うなど環境整備に配慮している。また季節に合った作品を展示したり、トイレの場所が分かりやすいよう掲示板をかけるなどの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや畳コーナーで寛いでいただけるよう声かけを行っている。自席でもゆっくりと塗絵などできるよう環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からの家具の持込みやご家族の写真を飾られたり、利用年数が長い方はご自分の作品などを飾られる等、ご本人にとっての心地よい空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADL評価票の活用と職員間の情報共有をもとに、各利用者様の残存機能を把握し、安心と安全をベースに自立に向けた支援を行っている。		